

平成 28 年度例題：免許資格職／専門（学校栄養職員）

[例題 1] 症例対照研究と前向きコホート研究の比較に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 症例対照研究は、前向きコホート研究に比べて、結果が出るまでに長い時間を要する。
2. 症例対照研究は、前向きコホート研究に比べて、曝露に関する情報の信頼性が高い。
3. 症例対照研究は、前向きコホート研究に比べて、多くの費用や労力を要する。
4. 症例対照研究では寄与危険度の算出ができるが、前向きコホート研究では寄与危険度の算出ができない。
5. 症例対照研究はまれな疾患についても適用可能であるが、前向きコホート研究はまれな疾患については適用困難である。

[正答 5]

[例題 2] 食事調査法に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 陰膳法は、大規模な食事調査に適している。
2. 半定量食物摂取頻度調査法では、食物の摂取頻度についてのみ調査対象者に質問する。
3. 食事記録法は、食品を摂取した後に記録を行う方法であり、調査による食習慣への干渉が少ない。
4. 24時間思い出し法は、調査対象者の識字力によって調査結果が影響を受けないという長所をもつ。
5. 食事記録法と24時間思い出し法は、いずれも定量的な調査方法であり、調査結果を相互に比較することが容易である。

[正答 4]